

## FD 学外セミナー参加報告書

氏名： 市野泰和

所属/職名： 経済学部/教授

参加セミナー名： 学生を授業に参加させる秘訣 ―アクティブラーニングの魅力―

セミナー参加日時/場所： 2018年8月10日, 13:50-16:50/滋賀県立大学

### ■セミナー内容・所感・授業や本学への活用について

#### 内容と所感

学生を授業に参加させるアクティブラーニングの手法を、参加者が、グループワークを通して理解し、その魅力を実感できるように作られたプログラムであった。

参加者は事前に、予習用の課題をしておくことが求められる。その課題とは、自分の担当する科目の「ある一日の授業展開案」を作り、その中に、学生の「個人ワーク」または「グループワーク」を組み込むようにする、というものである。そして、参加者は、自分がやってきた課題を、5名1組のグループの中でお互いに発表しあう。そのような、予習をさせておき、予習したことをグループ内で発表しあう、という形式は、まさに、授業でそのまま使うことのできるアクティブラーニングの手法である。このやりかただと、予習をしてきていない学生は、グループの他のメンバーが予習をしている中で自分が予習をしていないことを恥ずかしく思うだろうし、グループでのディスカッションにも参加できずにつまらなく思うだろうから、それが、ちゃんと予習をしてくることのインセンティブとして働くことが予想される。

また、学生が予習をしてきていたら、授業時間中には、基礎的なことではなく応用的なことを学ぶことができる。したがって、上記のやり方は、いわゆる反転授業と同じ効果を持つことも示唆された。

それから、講師の倉茂先生のお話の中で、「授業中、教員が話すばかりのところがあるのなら、それが、学生に予習してこさせる箇所になる」という指摘があった。それは、私が、自分の授業に上記の方法を取り入れる場合、どのようなことを予習させればいいのかについての非常に良い指針になると思った。

#### 授業への活用

2018年度後期に、私は経済学部1年次担当の「数学入門」という科目を担当する。この科目で、毎回、教科書の読んでおくべき箇所を指示して、「重要だと思ったこと」「わからなかったこと・疑問に思ったこと」を書く、というのと、練習問題を解く、というのを予習としてさせるつもりである。そして、グループで、「重要だと思ったこと」「わからなかったこと・疑問に思ったこと」を話し合っ共有し、練習問題の答え合わせをグループ内でさせる、というのを、毎回の授業の最初にやろうと思っている。